東京大学　留学プログラム報告書　（プログラム名：2012 IARU Global Summer Program）

所属学部/研究科・学年（留学時）：法学部（第二類・公法コース）3 年
留学先大学・参加コース：コペンハーゲン大学・’Kierkegaard: The Individual in Global Society’
コース期間：2012 年 7 月 4 日　～　2012 年 7 月 27 日
卒業・修了後の就職希望先：　1.研究職　②.専門職（医師・法曹・会計士等）　3.公務員　4.非営利団体　⑤民間企業
6.起業　7.その他（　　）

1．留学先大学の概要

キルケゴールの主著である「死に至る病」と「あれか、これか」の精読を中心に、「人間であるとはどういうことか」「我々はどのように生きるべきか」という哲学における究極的な問いに対するキルケゴールにとっての答えを探っていくプログラムです。学生は事前に講義で扱う文献を読み込み、授業は教授による講義の間に質疑応答・議論の時間が設けられる形で双方向的に行われました（guest lecturer を招いた講義も 5 回ありました）。授業外のアクティビティがあり、教授や他大学の学生との cross cultural communication も充実していました。

2．留学の動機

グローバル時代と言われる中これまで留学経験がなかったため、学部生時代に一度は海外留学を経験したかったというのが第一の動機です。休学等を要する長期の留学に踏み出す前の第一歩として、短期かつ学術的にも充実した（語学留学にとどまらない）プログラムを探していたところ、IARU GSP の存在を知り応募を決めました。東京大学に在籍しているからこそできる留学経験であるところにも魅力を感じました。

3．留学の準備

①プログラムへの参加手続き（申請にあたってのアドバイスなど）
プログラムに参加する前年度の終わりから東京大学の海外留学案内のサイトを見て検討を始め、進路や勉強のスケジュールを踏まえてプログラムを絞りました。参加手続きは東京大学が提供するプログラムだということもあり比較的簡単でしたが、早めから各プログラムの内容や倍率（募集・応募人数）、難易度等を調査しておくといいと思います。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
日本人が短期のデンマーク留学をする場合、ビザは不要でした。

③保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
クレジットカードの特典として提供される保険を利用したので特別な手続きはありませんでした（海外旅行保険が充実していたので新たに加入することはしませんでした）。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
プログラム参加が決まった後すぐに所属学部に必要書類を提出し、講義やゼミの教員に留学で欠席する旨連絡しました。単位交換に関しては帰国後提出する書類を見て審査し決定するとのことでしたが、授業期間との重複が比較的少なく欠席回数が数回で済んだため、単位取得には影響はないとのことでした。

⑤語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）

TOEIC は受験経験がありましたが、スピーキングに自信がなかったためその勉強も兼ねて留学する前年度の年明けから TOEFL の準備をし、受験しました。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
キルケゴールの著書の日本語版（解説書などでもよい）を 1～2 冊持参しておくと英語で内容が掴めないときや自分なりの疑問点を抽出するときの助けになります。
出発前には留学中に達成したい目標や、時間の使い方（学部の勉強との両立など）を考えておくとよいと思います。

4. 留学生活について
①住居（住居の種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
コペンハーゲン大学の International Office が 1 人部屋の学生寮を手配してくれました。International Office から学生用メールアドレスに送られる housing offer に期限内に回答し、早めに家賃等を振り込みます。家賃は約 5 万円、デポジットが約 8 万円です。
寮は整頓された清潔な 1 人部屋で、台所・トイレ・シャワーがあり、寮や部屋によって細かな品目は異なりますが、家具・食器・台所用品・掃除用具など基本的な生活用品は備え付けられていました。インターネット環境やランドリーもあり快適です。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
【気候】プログラムのある 7 月は、全般的には涼しく過ごしやすい気候で、夜 11 時にようやく完全に暗くなります。夏とはいえ冷え込むので（最高気温が 20 度を超えない日も）、前半は長袖に厚手のカーディガンといった服装で過ごしました。雨が多い季節なので折り畳み傘は必須、レインコートやウィンドブレーカーを持っている人も多く見受けられました。後半は日差しが強くなり暑さも感じましたが、それでも朝晩は涼しかったです。
【大学周辺の様子】
神学部はコペンハーゲンの中心街にあり、デンマーク最大のショッピングストリートにも近い便利な立地です。
【交通機関】
市バスが非常に発達しています。定期券はバス・鉄道共通なので、寮から大学までの定期券を購入しておくだけでもコペンハーゲン中心部の移動が自由にできるようになり、行動の幅が広がります。
【食事】
基本的に自炊です（寮のそばにスーパーがあり便利でした）。週末（特に日曜日）には商店の営業がかなり縮小する国ではありますが、少し足を伸ばせば毎日 8 時から 24 時まで営業しているスーパーもありました。
外食は全般的に高価ですが、カフェ・ベーカリーやデンマーク料理を楽しめるレストラン、お寿司屋さんなど幅広いお店が揃っているので、ガイドブックを見たりデンマーク人学生におすすめを聞いたりして時々出かけていました。
【お金の管理方法】
デンマーククローネでの送金を取り扱っている銀行は多くないので、海外送金は時間がかかるということもあり、早めに探して手続きを済ませておくことをおすすめします。
ほとんどのお店でクレジットカードが利用できる（現地の人はちょっとした買い物でもカード払いにする）ので、カードを持っておくと便利です。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
治安のよい国なのであまり心配はしていませんでしたが、東京大学が発行している危機管理ガイドブックを参考に基

本的な危機管理は徹底しました。

④留学に要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
航空賃はマイレージを使って予約したため約 10 万円、授業料は無料、教科書代はキルケゴールの著書（英語版）2 冊で 33ドル、家賃とデポジットが約 13 万円、交通費は定期券が 415 デンマーククローネ

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額など）
JASSO 奨学金：8 万円

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
1 人で、あるいはプログラムで一緒になった他大学の学生とコペンハーゲン市内を観光/1 泊 2 日の Bike Trip など

5. 学習・研究について
①履修した授業科目のリスト（そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。）
Kierkegaard: The Individual in Global Society のみ

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）
授業：円形に机を並べて、教授が講義をし、途中に質疑応答と議論の時間が設けられる双方向的な授業
予習：次回の課題文献を読み込む
復習：Final Report の構想を練りながら講義と議論の内容を振り返る

③学習・研究面でのアドバイス
役に立つと思うのは、哲学で用いられる専門用語を英語で知っておくこと/議論で発言することを念頭において、自分なりの疑問点を明らかにしながら予習すること/図書館やインターネットで参考になる文献を探してみることです。

④語学面での苦労・アドバイス等
東京大学での学業において英語を使う頻度が高くなかった/英語圏の大学からの学生が多く、コペンハーゲン大学の学生も語学力が高かった/哲学の講義で用いられる英語は抽象性が高い/独自性の高い講義と議論だったため内容が予想できない、といった理由から講義・議論を聞き取ることに苦労しました。困難は最後まで消えず、完全に授業内容を理解したと言える自信はないものの、語学留学にとどまらない経験をするため、海外の一流大学の学生のレベルを実感するために GSP に参加したのだということを思い出しながら、あきらめず根気強く理解に努めました。

6. 留学先大学の環境について
①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
Student assistant の学生が二人おり、親切に学部の案内や生活面のアドバイスをしてくれたほか、困ったことがあれば International Office が主にメールで対応してくれました。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等）
図書館を利用でき、大学内は無線LAN環境が整備されています。手続きをすれば学部内のパソコンやプリンターも利用できます。ただ、大学自体が夏休み期間だったため、利用できる施設は限られていました。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

http://www.ku.dk/english/のうち特に http://studies.ku.dk/ （international students 向けのサイト）

http://plato.stanford.edu/entries/kierkegaard/ （コメンタリー）

http://www.rejseplanen.dk/（乗換案内）

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学経験がないにも拘わらず学術的なプログラムに参加することや東京大学での学業との両立などに対して不安も大きく、受け入れの連絡が来た後も参加するか決めかねるほどでしたが、プログラムを終えて心から参加してよかったと思っています。留学準備の過程での書類記入・提出や英語学習は今後長期の留学をするときも役立つ経験だと思いますし、プログラム自体も期待していたよりずっと実り多いものでした。迷っている方はぜひ応募してみてほしいと思います。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

The main reason why I decided to participate in this program was in this global world it would be necessary for university students to have experience of studying abroad and international understanding through communication with students from other countries. To become “an internationally-minded person” I had realized English skills wouldn’t be only necessary thing, but I couldn’t figure out what I lacked.

Throughout my schooldays, I had dealt relatively well with English as an obligatory subject. However, I don’t have confidence in my English ability, especially expressing myself and discuss academic themes in English. This lack of confidence prevented me from taking advantage of various academic events and lectures offered in English. I thought there had to be a change in my attitude toward using English and interacting with people from other countries: I gradually became aware that if I would be satisfied with this present environment, in which what I had to do was improving my performance in subjects taught mainly in Japanese, I would continue hesitating to get involved in international challenges.

The changes in my motivations and interests are summed up in three points:

First, in respect of learning: I have preferred practical study and always sought a relationship between what I was now learning and the real society/world. But what I realized that the thing I had lacked was consciousness of the importance of deepening my understanding on my identity and personality as one university student, one Japanese person, and one human being, which forms a basis of my way of living and criteria for making a decision.

Second, in respect of studying abroad: Though the program was short-term, I’ve almost overcome reluctance to join international programs and events. I found that only by trying to

accumulate personal experiences and to endure hardship I could get through difficulties in multicultural/international environment and achieve my academic goals.

And Third, in respect of international understanding: It goes without saying that I should enhance my language skill, and also I noticed that I had to build up wide knowledge and interest on incidents and history in the world - only questioning and finding differences with my own country aren't sufficient at all.

In the following three passages I'd like to tell experiences and thoughts which affected these changes.

1. This course focused on one of the most important and radical question for philosophy: "How should we live as a human being?" In an open and friendly classroom atmosphere, my teacher guided us to absorb the philosopher's thoughts properly and raise awareness of our own issues about individuality and an ideal way of life. At first I had difficulty grasping the thoughts because I haven't contemplated this kind of question, being independent of down-to-earth views and social contexts. But as I accumulated experience of trying hard to find my own standpoint and issues, I could be much more enthusiastic with philosophical thinking than I had expected. I realized what had made me keep away from this academic field was the lack of attempt to get rid of my inflexible way of thinking and stereotypes and face the field and its knowledge directly. Through my struggle to absorb philosophical insights and to keep up active discussion in the class, I could gain an idea of the way to cope with difficulty entering a new academic field and environment.

2. Some of the students in this program had experience of taking, or were going to take other academic programs or language courses. They talked me about a variety of programs, from short ones to long/professional ones, which they could apply for with support of their home universities. They seemed to think it natural to join these kinds of programs and to interact with foreign students, and they didn't hesitate to get into multicultural environment. Of course they could make themselves understood perfectly in English, and the self-confidence about language skills would decrease reluctance. But, this kind of positive attitudes was surprising, because in my surrounding circumstances joining summer programs or other academic courses offered by the university was not common, and many students have an impression that these courses are generally popular among students who are highly conscious of their future plans, which relates to global enterprises or to study/research abroad.

3. Communication with Danish students was also impressive in terms of English ability and education. I heard that in high school Danish students had to deal with discussion and presentation in English, so they get used to expressing themselves in both Danish and English. Their high language skills are partly because of language environment in Denmark: Denmark is a small country, so Danish people are surrounded by imported products and entertainment contents, substantial part of which needs ability to understand English. In addition to educational factors, they can learn it more naturally and intensively than Japanese people. From my brief observation, in Copenhagen many of advertisements, labels and signboards are written in Danish, and to live and work in this country to be able to use Danish is surely indispensable. But using English become a regular

occurrence for many Danes, which, I suppose, improves a balance between respect for local/traditional culture and natural attitude toward the foreign language/culture.

After completing the GSP, I've started planning to study abroad for a master's degree, because to make studying abroad truly meaningful I have to find specific fields for which I can concern enthusiastically and broaden knowledge to the extent of expressing my interests and opinions toward controversial themes in these fields.

IARU GSP brought me a precious international experience. For me it was the best first step to study and live in foreign countries and to cultivate a sense of a global citizen. I deeply appreciate to the University of Tokyo, the University of Copenhagen, and JASSO, which gave me the opportunity and supported me throughout the process of participating in the GSP.

東京大学　留学プログラム報告書　（プログラム名：2012 IARU Global Summer Program）

所属学部/研究科・学年（留学時）：　法学部第三類 3 年
留学先大学・参加コース：コペンハーゲン大学・Kierkegaard: The Individual in the Global Society
コース期間：2012 年 7 月 4 日　～　2012 年 7 月 28 日
卒業・修了後の就職希望先：　1.研究職　2.専門職（医師・法曹・会計士等）　3.公務員　4.非営利団体　⑤.民間企業
6.起業　7.その他（　　）

1. 留学先大学の概要

コペンハーゲン大学。学部によってキャンパスがいくつかわかれており、神学部は市街地にありました。

2. 留学の動機

自身の英語力を使い、海外の、東京大学とは違った授業の形式、空気を体験したいと思いました。また、キルケゴールという法学部にいては勉強できないことについてより深く理解したいとおもったからです。

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き（申請にあたってのアドバイスなど）
特にひっかかったことはありませんでした。強いて言うなら法学部の試験期間と〆切が被っているため、はやめに準備する必要があると思います。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
ビザは必要ありませんでした。

③保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
保険は自身のクレジットカードに附属していたためあらためて申請はしませんでした。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
ゼミ履修希望を出す際に最後2回授業を休む事を前提としていることを教授に伝えました。

⑤語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）
特に改めて勉強はしませんでした。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
勉強道具としてはパソコン、生活用にはシーツ等の寝具と調味料が必要だったと思います。

4. 留学生活について

①住居（住居の種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
大学が寮を手配してくれました。家賃は DKK4700 ほどでした。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

気候は涼しく、北海道と同じくらいです。大学は市街中心にあり、寮からはバスと徒歩で20分強くらいでした。交通機関は非常に発達しています。食事は外食すると昼でも 1500 円程はかかりますが、スーパーなどの食材の値段は日本と変わりませんでした。お金は着いた際に一気に替え、残りは全てクレジットカードをつかいました。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
日が暮れるのが遅いのもあり、治安は非常によかったです。医療機関はかかっていないので分かりません。

④留学に要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
30万ほど（航空賃 15 万、授業料 0, 教科書代 3000, 家賃6,7 万、食費 5 万、交通費 5000,娯楽費 3 万）

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額など）
Jasso 8 万円給付

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
旅行、観光

5. 学習・研究について
①履修した授業科目のリスト（そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。）
●Kierkegaard: The Individual in the Global Society

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）
毎回 30~40 ページ程のキルケゴールの著作を予習として読み、授業では先生が解説し、生徒が質問、議論するという形式でした。また、3 回に1回はゲストの先生がいらっしゃってそれぞれのご専門をキルケゴールに絡めてお話しして下さいました。

③学習・研究面でのアドバイス
内容に関しては少しゆるめではあったので勉強しやすかったと思います。

④語学面での苦労・アドバイス等
専門用語が多かったためきいただけではすぐに理解できなかった事が多かったです。哲学全般のかるい概要と英単語を予習して行くと理解がはやいと思います。

6. 留学先大学の環境について
①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
メンターの方がおり、また生徒2人のサポートもありました。生徒の方は学部を案内してくれたり、夜外食に誘ってくれたりしました。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等）
図書館(PC あり)がありますが、一度も使いませんでした。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

死に至る病　岩波新書

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

授業のことなど気になりますが、行くと案外なんとかなるものなので気になるコースがあれば是非応募すべきだと思います。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

2012 IARU Global Summer Program　学習成果に関するレポート

私は今回コペンハーゲン大学のキルケゴールの授業に参加してきました。参加を希望するに至った理由として、大学院進学において海外の大学院も視野にいれていたことが一つです。現在の東大の学部授業から英語で行い、また授業形態も変わってくるであろう英語圏の大学院での授業を類推するのはかなり難しいものがあるため、その前段階として海外の語学留学でなく、実際の大学の授業に則したプログラムを受けられるという点に非常に魅力を感じました。

今回のキルケゴールについて学ぶというプログラムの内容それ自体が非常に興味をそそられるものであることも希望理由にあげられます。一つの事象に関して多様な視点から切り込んでいくことが重要だと私は常々考えておりますが、国もバックグラウンドも違う学生が集まることで、今まである程度の知識を持っている分野に関してもまた新しく多様な視点を持つということが容易かつ深いものになるのではなると考えました。

また、デンマークという北欧の高福祉かつ幸福度の高い国に興味があり、実際現地に行く事で少しでもその感じを体感したいと思い、このプログラムを希望しました。

プログラムが始まるまで特に予習は課されませんでしたが、プログラムで使用する課題を先に英語と日本語で読んでおくことで基礎知識をつけました。

プログラムが始まると、お恥ずかしい話ですが英語ネイティヴの人、また北欧の人の喋る英語が思っていた以上にはやく、聞き取ることに集中しなければならず内容に集中する余裕がありませんでした。ただ数回授業をこなすとそれには慣れていきました。しかし、哲学英語、基礎的な哲学知識が必要となるため一度きいてすぐに理解するというのは少し難しかったです。

授業ではキルケゴールの著作を読んでいき、それに関しての先生のレクチャー、生徒含めた議論や指摘、またゲストレクチャーをお招きして他の分野とキルケゴールの考えを繋げる講義をしていただいたりしました。一つの授業の中で他の分野との繋がりを感じるというのは非常に新鮮な体験であり、興味深かったです。

授業を受ける事で、今までは哲学に関して一通りの浅い知識しかなかったのですが、非常に独特な哲学的な考え方に触れる事ができました。言葉を精査するという意味では法学と似ているところもありますが、根本的に考え方が違うような感じがしました。哲学という学問自体にも興味がわき、また今まではあまり他のものに適用できないものという印象をもっていましたが、哲学的な知識をもつことは必要であると強くおもいました。

今回のクラスは様々な大学から沢山の人が集まってきていました。デンマーク人が多くいたのは勿論ですが、デンマークと日本とでは習慣、考え方に大きく違うところがありました。例えば、平日昼であっても多くの人が日光浴を楽しみ、カフェのオープンテラスがほぼ全て満員、なんてことは日本ではあまりみられない光景ですし、またタトゥーに関して日本では一種のタブーの様な、入れているだけでマイナスイメージをうけること

が多いと思いますがデンマークでは日本でのピアスの様な扱いで、若い人には抵抗なく男女ともにいれることが多いそうです。

違う文化を受け入れるという事は全てに賛成をするということではないと思っています。各々の事情を勘案した上で認めるということが大事になってくるのではないかと考えています。今回は話をきき、日本での考え方を話し差異を明らかにした上で「認める」ことができたのではないかと思います。

参加した上で、海外留学に対しての関心は非常に大きくなりました。哲学ということに限らず、海外で教育をうけるということの良い点悪い点を学んだことでより長い期間、海外で勉強をしたいと強く感じました。海外で勉強をするためには費用の面など大きな壁がありますが、それがあってでも留学をしたい、という気持ちになりました。

東京大学　留学プログラム報告書 （プログラム名：2012 IARU Global Summer Program）

所属学部/研究科・学年（留学時）：人文社会系研究科　博士1年
留学先大学・参加コース：　コペンハーゲン大学　Kierkegaard: The individual in Global Society.
コース期間：　2012 年 7 月 4 日　～　2012 年 7 月 27 日
卒業・修了後の就職希望先：**1.研究職**　2.専門職（医師・法曹・会計士等）　3.公務員　4.非営利団体　5.民間企業
6.起業　7.その他（　　）

本報告書は、大学として情報を蓄積し、今後の本学学生の有意義な留学生活のための資料として活用します。学内外の広報等に活用する場合があるため、個人情報の観点等を十分に鑑み出版物・ホームページ等に掲載可能な内容とし、差し支えない範囲で自由にご記入ください。（広報等に利用する場合は原則として筆者の氏名は公開しません。）

●留学プログラム終了後 2 週間以内（必着）に Word 形式で提出してください。
　提出先：東京大学本部国際交流課　学生・研究者交流チーム　iaru.gsp@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
●後輩へのアドバイス等も含め、今後役に立つような内容としてください。
●東京大学のホームページ等に掲載可能な写真があれば各項目に掲載してください。
●各項目の分量は自由に変更していただいてかまいません。

1. 留学先大学の概要

コペンハーゲン大学は、デンマークで一番歴史があり、また最大規模の大学である。コペンハーゲンの中央部にある最も古いキャンパスは、外囲いがなくて、周辺の商店街と一体化する感じである。学生は、みな英語上達であり、外国人と対して親切である。

2. 留学の動機

いま、グローバル化が進んでいるのに、外に出ないと、地球の真の姿を見ることができないということである。学問の世界も同然である。たとえ日本文化を専攻している人でも、ただ日本や東洋の書物に没頭するだけでは、視野が狭く制限されることがあると思う。私は、将来、研究者になることを目指しているので、狭い個別の専門分野に囚われず、固定・停滞しがちな従来の学科の枠組みを超えての交流・討論をしたいので、応募したのである。

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き（申請にあたってのアドバイスなど）
特にない。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
特にない。

③保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
そそっかしい人間は、より全面的な保険を取ったほうがいい。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
ある授業をやむを得ず、欠席する場合があるので、事前に先生と相談する。

⑤語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）
英語は、どれだけ準備しても、不自由の時も感じられる。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
Visaカード

4. 留学生活について
①住居（住居の種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
今回、自分で探そうとしたが、もう過ごしで騙されるところだった。やはり、学校の担当者に頼む方がいい。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
JCBカードは不便で、Visaカード是非もつ必要がある。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
特になし

④留学に要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
30 万

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額など）
JASSO　8 万

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
デンマーク周辺の国を観光に行った。

5. 学習・研究について
①履修した授業科目のリスト（そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。）
Kierkegaard: The individual in Global Society.

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）
資料を解読、先生の講義、学生の議論

③学習・研究面でのアドバイス
特にない。

④語学面での苦労・アドバイス等
母語が英語ではない人にとって、馴染みのない思想家の文章を読むのは、大変だった。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等） 国際交流室の先生たちは、非常に親切して対応してくれた。 ②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等） 図書館が遠い、利用不便、スポーツ施設は分からない。食堂もない、WIFI 便利
8. その他 ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 特にない。 ②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 独りでヨーロッパを初めて訪れようとする人は、よく準備しなさい。 ④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

中国語には「万巻の書を読み、万里の道を往く」という言葉があり、それは、昔から人気のある座右の銘の一つである。ところが、今の全世界のグローバル化に伴い、海外への旅立ちは、非常に便利になり、「万里の道を往こう」とする人は、大幅に増えるに違いないだろう。だが、それに対して、「万巻の書を読む」ことを目指す人が、恐らく減っているのではないかと思われる。

私は、日本歴史・文化に関する著作に惹かれていたので日本語を学び、日本に留学に来ているのである。自分の知らない世界に出て、そして地元の人々と知り合ってコミュニケーションし、異文化を自分の肌で感じることができ、本当に素晴らしい体験である。

「可愛い子には旅をさせろ」という諺は、日本に来てから初めて耳にした。これも、古くからの教えである。子供を育てるために、世間に出して苦労をさ

せ、人間社会の厳しい経験を積むほど成長し、自立できるという意味である。

博士課程に入って、ほぼ毎日学校で読書の生活を送っている私は、もっと自分の人間性を磨くため、もっと自分の視野を広げるために、デンマークという遠い異国に行われるキェルケゴールという馴染みのない思想家のコース： Kierkegaard: The individual in Global

Society を応募し、7 月 4 日から 7 月 27 まで、三週間の海外留学を行った。

今回の海外留学は、忘れられない印象を多く残した。感想について、特に強調しておきたいのは、二点がある。

一つ目は、グローバル化が進んでいるのに、外に出ないと、地球の真の姿を見ることができないということである。学問の世界も同然である。たとえ日本文化を専攻している人でも、ただ日本や東洋の書物に没頭するだけでは、視野が狭く制限されることがあると思う。特に将来、研究者を目指す人にとっては、狭い個別の専門分野に囚われず、固定・停滞しがちな従来の学科の枠組みを超えての交流・討論が、大事のことである。また、刺激の場としての海外留学は、新たな視角からのテーマの発見や新しい研究領域の開拓にもつながっていくのではないかと考えられる。

もう一つは、「可愛い子には旅をさせろ」という諺は、日本においてはその意味が既に失効したのではないかと思われる。なぜなら、日本のサービス業、そして社会安全性は、世界各国のトップに立っているので、日本の各地に旅をしても、多くの場合は単なるレクリエーションに過ぎない。日本社会に慣れる人間は、自分を取り巻く外部環境に対して持っている危機感が低下であるので、出国しなければ、人間社会の厳しさを知らないだろう。だらか、現実の状況に基づき、「可愛い子には、海外の旅をさせろ」というふうに表記されるほうが、もっと適切だろう。

今回の海外留学は、私の研究そして生活習慣が抱えている多くの問題点をさらけ出した。

先ず、キェルケゴールに対しての勉強を通じて、漸く合理主義の限界点を気付いたことである。

一般的に言えば、キェルケゴールは、実存哲学の先駆者だと評価される宗教思想家である。彼は、19 世紀、ロマン主義的な文芸・哲学・神学が，人間実存を内部から崩壊させるこれらの危機や病患についての無知という問題を追究し、そして、こういう問題を助長する方向で展開される時代精神としてのヘーゲル哲学と対決して、神の前に立つ単独者として各人がいかなる生き方を選びとるかと問い詰めてキリスト教的な救済を訴えたのである。

キェルケゴールの警句を見てみよう。

「人間とは一つの総合――無限と有限、時間的なものと永遠的なもの、自由と必然――である。」

「思弁が終わる。まさにそのときに信仰が始まる。」

確かにそうだろう。「有限」、「時間的なもの」、「必然」という人間性の合理の一面は、「思弁」の力、あるいは「理性」によって解明されるべきである。他方、「無限」、「永遠的なもの」、「自由」という人間性の不条理性として溢れているエネルギーは、理性の及ばないところに存在し、「信仰」の力でなければ答えられない。

人間とは、そもそも「合理」と「非合理」の総合であって、「善」の生活を導くために、「思弁」と「信仰」の何れも不可欠だと思われる。

第二点は、今回の海外留学の失敗体験を踏まえて、自分の性格や習慣の不足を痛感したのである。

人を信じやすい私は、詐欺の被害に遭った。

さらに、そそっかしい私は、日本に帰国直前に、パスポート、お金などの入ったカバンを地下鉄に置き忘れてしまって、大失態をしでかした。

今回の海外留学は、色んな意味で本当にいい勉強になった。ちゃんとその成功と失敗を反省して、 入念に準備した上での次の海外留学へ旅立ちたいと思う。

東京大学　留学プログラム報告書 （プログラム名：2012 IARU Global Summer Program）

所属学部/研究科・学年（留学時）：文学部行動文化学科 3 年
留学先大学・参加コース：Copenhagen University, Kierkegaard: The Individual in Global Society
コース期間： 2012 年　7 月　4 日　～　2012 年　7 月　27 日
卒業・修了後の就職希望先：　1.研究職

1．留学先大学の概要

創立は 1479 年と 500 年以上の歴史を持ち，北欧では最古の大学の一つである．いわゆる中世四学部から出発した西欧型の大学の典型だが，現在は 6 学部に 200 以上のプログラムが用意され，学生数は 37,000 人と大規模な研究大学となっている．キャンパスは学部ごとにコペンハーゲン市内に点在しており，図書館などが一般の市民にも開放されている．

2．留学の動機

もともと，海外の大学が開くサマープログラムには興味を持っていた．しかし，大学の海外留学ページで紹介されているコースはどれも国際関係や都市開発など分野横断的な内容を扱うもので自分の関心と合致しなかった．その中で，コペンハーゲン大学の，自国が生んだ哲学者キルケゴールの著作を読むというこのコースは，シンプルすぎるきらいもあって他のコースとは明らかに毛色が異なっていた．サマープログラムで人文学をやるのも悪くないと思い，応募するに至った．

3．留学の準備

①プログラムへの参加手続き（申請にあたってのアドバイスなど）

恐らく，他の候補がある中でどのような基準でコースを選べばよいかという問題かと思うが，実際に参加した人に話を聞く機会があればよかっただろうと，後になって思う．従って，直接話すことはできなくとも，この資料が少しでも役に立つのであれば幸いである．選抜過程に関してはよく分からないが，両大学それぞれの思惑？があったのだろうか，選抜自体は厳しくないと思うので心配しなくてよいのではないだろうか．

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

かといって，手の内を全てひけらかすのも，それはそれでこれから世界に飛び立つ global で tough で competitive で ambitious な若者にはよくないだろうと思う．自分で情報をかき集め後にこの資料に目を通すことを切に願って，デンマークでは 3 ヶ月以内の個人での滞在にはビザを申請する必要がないことをここに記しておきたい．

③保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

このような情報をなぜ個々の学生に書かせるのか甚だ理解できないが，クレジットカードを持っていなかったため別途加入したことを記す．

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

このプログラムは申請が通れば所属する課程の単位として認められる可能性があるとのことだが，私の場合は文学部から奨学金をもらってとこうした関係上，単位認定を受けられない旨を伝えられていたので省略する．
当たり前だが，所属するゼミやそれに準じる授業の先生には欠席する旨を伝えた．必修の科目の試験に関しては相

談の上でレポートになった.

⑤語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）
特に何もしなかった. もちろん TOEFL は受けたが.

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
調味料などの物質的なものから, ネイティブの議論についていけないことへの覚悟と諦めの上での目標などといった精神的なものまで, 日本から持参した方がよいものはごまんとあるが, 基本的に後悔しないとその効用は分からないものであり, 海外の生活は予期しないことの連続だが, そうしたハプニングの種類は個々人によって異なる. これをもっていけばいい, あれも必要だと言われてあたふたするより, 自分の頭で考えた方が現地についてからを考えると有益かと思われる. ただ, 唯一ソーシャルキャピタルなるものは現地のスーパーには売っていない. 「持つべきものは友達」という文句の「持つ」を（資本を）「所有する」と解釈すると, 社会関係資本の重要性を再認識できるのではないだろうか.

4. 留学生活について
①住居（住居の種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
大学が用意してくれば学生寮を利用した. デポジットを除けば 6 万程度で, 一人部屋にしては大きかった（日本が狭いだけ？）ので環境としてはよかった. ただ, 一人部屋だったが故に独り部屋になることが多く, 学生との交流と言う意味では物足りなかった. もちろん勉強に集中できたので一長一短かとは思う. 一部の学生は自分で部屋を見つけていたようだった.

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
7 月のコペンハーゲンは夏真っ盛りという季節だが, 日本のように湿気がないため健康的に過ごせる.（日差しが強いのでサングラスは必要だろう）, 通学にはバスを利用した. 食事は部屋で自炊だった. お金に関しては厳禁のみしか持ち歩かなかった.

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
近年移民の増加はあるものの, コペンハーゲンの治安は非常に, ひいては日本以上によいものだった. よほどのことがない限り財布を後ろポケットに入れても問題ないような地区ばかりで, 治安面での不安は特に必要ない. もちろん, 海外に滞在しているという意味で, 最低限の警戒心は必要だろう. 医療機関は利用しなかった. 「身」よりも「心」も管理は必要, 落ち込んだら（いれば）親友や（いれば）恋人や（いれば）同じ階にいる日本人などと話すとよいだろう. いればだが.

④留学に要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
航空券：145,000yen
授業料：無料
教科書：10,000yen 自発的に購入したもの含め
家賃:60,000yen
食費：30,000yen
交通費:10,000yen

娯楽費：priceless

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額など）

人文社会系研究科／文学部から「次世代人文学育成プログラム」の学部生向け個人派遣プログラムから研究資金として奨学金を受けた．ただし，平成 24 年度で終了なので注意．

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

平日月水金のみが授業だったので，日本にいるときより自由な時間を確保できた．基本的に日本から持ち込んだ本や現地で調達した本を読んだり，予習や復習，ネットサーフィンなどに費やした．結構な頻度で同じコースの学生がソーシャルな企画を用意してくれ，食事会やビール工場めぐりなどに参加した．プログラムも第二週目の土日にバイクトリップを用意してくれたので参加した．

5．学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。）

Kierkegaard: The Individual in Global Society

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

英訳されたキルケゴールのテクストを読んで，コメントを考え，授業に出席した．先生による簡単なレクチャーの後は議論が中心．その繰り返しになる．ゲスト講義も多かった．

③学習・研究面でのアドバイス

分からないことがあったら先生に，もしくは理解できている学生に聞くのがよい．

④語学面での苦労・アドバイス等

日本人が留学すると，語学面で「苦労」するのは定番なのだろうか．苦労するのが分かりきっているのならば，なぜアドバイスをする必要があるのだろうか．現実をありのままに受け入れて自分にできることを探す，これに尽きる．

6．留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

特になし．

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等）

図書館は学部ごとに設置されている．また東大でいう総合図書館は日本でいう国立図書館に当たっているようで，王立図書館は観光名所としても自習環境としても利用している学生は多かった．私は社会科学部の図書館が夜遅くまで開いていることを発見したので，そちらを利用していた．

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし.

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

1ヶ月程度の短期留学ならば，時期を適切に選べばデメリットなどほとんどないと思う．もちろん，金銭面でのコストは日本にいるよりも大きいが，それは将来の自分への投資と思えばよい．今回の留学を通じて，①海外で生活することの意味，②海外で学ぶことの意味，③日本で学ぶことの意味を省みることができた．このような経験は海外に行かないと難しいと思うので，何らかの形で海外という環境で学ぶことはよいことだろうと思う.

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　留学プログラム報告書　（プログラム名：2012 IARU Global Summer Program）

所属学部/研究科・学年（留学時）：文学部･4年
留学先大学・参加コース：コペンハーゲン大学･Kierkegaard
コース期間：2012 年　7 月　4 日　～　2012 年 7　月　27 日
卒業・修了後の就職希望先：　1.研究職　2.専門職（医師・法曹・会計士等）　3.公務員　4.非営利団体　⑤民間企業
6.起業　7.その他（　　）

1．留学先大学の概要

コペンハーゲン大学。市内にキャンパスがあり、各学部ごとに分かれている。私の所属した神学部は、ストロイエという歩行者専用道路沿いにあり、アクセスもよかった。大学内には図書室があり、２４時間開放している。

2．留学の動機

以下の２点ある。１点目は、海外での大学の講義を経験してみたかった。今まで、海外にはインターンシップなどで長期滞在したことはあったが、勉強で滞在したことはなく、海外の学生と英語で授業をうけ、ディスカッションをするなかで、世界のレベルを知りたいと思った。２点目としては、私の所属が宗教学であり、前期に哲学の授業を受けていたこともあり、開講コースのキルケゴール哲学に興味があった。キルケゴールはコペンハーゲン大学で学んでおり、彼が学んだ場所で自分も勉強することは意味があると思った。

3．留学の準備

①プログラムへの参加手続き（申請にあたってのアドバイスなど）
計画的に、早め早めにすることをお勧めします。特に私は４年生であったため、就職活動のエントリーシート執筆と並行して取り組まねばならず、少し大変でした。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）
ビザは必要ありませんでした。

③保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）
インターネットから申し込みました。

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）
レポートの提出方法の交渉をしました。

⑤語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）
特にしていませんが、専門用語を英語で聞き取れるようにしておくとよいと思います。

⑥日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日本食。醤油など。

4．留学生活について

①住居（住居の種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
大学の寮。月８万円ほど。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
バスで通学。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
治安はよかったです。

④留学に要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
航空費16万円。
家賃8万円。
生活費8万円。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額など）
JASSO

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
日本のレポートを書いていました。

5. 学習・研究について
①履修した授業科目のリスト（そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。）
Kierkegaard

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）
予習、授業、復習のサイクルをこなしていました。

③学習・研究面でのアドバイス
集中して授業を理解すること。事前に基本的内容を日本語で入れておくと理解が促進されると思います。

④語学面での苦労・アドバイス等
専門用語を事前に勉強しておくこと。

6. 留学先大学の環境について
①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
International Office(12:00~15:00)にてサポートが得られます。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等）
Student Card を事前に申し込んでおけば使えます。

8. その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
地球の歩き方。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
視野が広げます。ぜひ、トライしてみてください。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

1. How your motivations for learning, studying abroad, and international understanding have changed through your participation in the GSP.

After going to Copenhagen my motivation for studying abroad going up, wanting to study abroad after working for the company and understand how the world is getting along for some years. This is because I understand how much the experience of studying abroad help me in the future as I have written in the section 2.

About learning, before going to Copenhagen, I intended to study about how the religious organizations are managed. My interest was more like management thing. But now after studying Kierkegaard in Copenhagen where he was born and grown up, feeling how Kierkegaard saw the place in my eyes, I came to be interested in Theology and Philosophy. And I am thinking of studying Kierkegaard for my graduating study. So I can say that this experience widened my perspective and made me get a new viewpoint. In this respect, the GSP raised my motivation for learning. At the same time, I made up my mind to do my best in the field of academic study after going back to Japan. This is because during my 1st and 2nd years of my university I devoted myself into NPO activity, and at the 3rd year I was doing the internship for several companies, thus I did not take so much time into academic studying, and it was the first time for me that I could concentrate on studying where I had nothing that I have to deal with except academic studying. Because of this reason, I could catch up with Kierkegaard for the very short time. This was really good for me.

Also, I could say that I could gain international understanding. It might be because it was Theology. Theology considers the matter of how we should live our lives. Since this matter is fundamental to everyone, we could have essential conversation. Thus, we could understand quickly each other, and know what they think about politics, education problems and so on. In this way, I learned that we can get along with each other no matter where he/she is from in the face to face communication. And I thought that when we talk about various problems in the world such as politics, wars, and so on, we lack real faces of people living there. We just focus on the issue not talking of each person. But when we see those people who are from those countries which Japan

share some problems with, we see his/her personalities. Thus, I think there might be a way to solve international problems about politics, wars, and so on, if we know people from other countries in face.

2. Your interest/plans for studying abroad in the future after completing the GSP.

Before I went to Copenhagen to study Kierkegaard, I had been interested in studying abroad. However, since I had no experience of studying abroad, I did not include studying abroad in the future in my career plan. After participating GSP, I came to be able to imagine what it is like to study abroad for a year or more. Therefore now I have decided to study abroad after working for some years for the Japanese company. Now I think studying abroad makes my career widen in the following two reasons.

One is because I find that I can understand how the world's mainstream perspective is like. I was studying Kierkegaard in Copenhagen. In Japan, I first touch Kierkegaard in the context of the story that Abraham, being tested, offered up Isaac by faith. This is the most popular issue of studying Kierkegaard. However I found that in Copenhagen or in a world, they focus more on love or how we should live rather than the interpretation of the Bible. In this way I could find the different side of Kierkegaard, which gave me a new perspective. And I became more interested in Kierkegaard and Philosophy itself. From this very experience, I really understand how important to know how the study about everything is going on in the world, not only Japan. Since the world is getting more and more globalized, it is getting more and more important to know the main current. This will help you and me to understand better.

Second reason is that you can get many friends from all over the world. I am sure that the people you will make friends with will build a global career. Thus, they will help you in the future, or you will help you in the future too.